

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

簿記・情報・観光等の科目を学ぶ商業学科の特性を活かして地域のニーズや社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や社会を支える人材を育成する。

1. 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し、目標達成に向かう自己実現力を育む。

2. 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、社会での役割を自ら見出し、主体的に役割を果たそうとする人材を育成する。

3. 本校で身につけた知識や経験をもとに、様々な困難に立ち向かい、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。

4. 市民や地域の期待に応え、生徒が楽しく、意欲的に学べる環境や取り組みの充実した学校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1)「わかる授業、学力が定着する授業、進路に結果をだす授業」をめざした取り組みを進める。

ア 基礎基本の充実をはかり、わかりやすい授業をめざすとともに、商業学科の特性を活かした実践的な授業やICTを活用した授業展開、教科横断授業の実践など、教員同士が相互に教育力を向上させることで、生徒の進路実現に繋げる。

イ 授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、公開授業や校内研究協議を活性化することで授業力の向上を図る。

ウ 授業アンケート等の結果を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を図る。

※学校教育自己診断（教員）における「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率を、R8年度には70%以上をめざし、毎年7%ずつ引き上げる。(R4 75% R5 50%)

※学校教育自己診断（生徒）における「授業は、わかりやすく楽しい」の肯定率を、R8年度には75%以上をめざし、毎年3%ずつ引き上げる。(R4 73% R5 66%)

※基礎学力の定着をめざし、全商簿記検定・全商情報処理検定における3級の取得者を令和6年度1年次での取得者割合を70%とし毎年向上させる。(R3 57% R4 66% R5 60%)

2 商業教育、観光教育、キャリア教育、道徳心・社会性の育成の推進

(1) 商業教育、観光教育、キャリア教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人として他者と協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

ア 「ライフプランニング」、「課題研究」、「志学」LHR等を活用して、3年間を見通した商業教育、キャリア教育等を行う。

イ 資格の取得と技術の習得を勧め、社会人基礎力を身につけさせる。

ウ 挨拶、礼儀、身だしなみ等、規範意識を高める態度を日々の教育活動の中で育む。

エ 生徒自ら時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立させる。

オ 生徒の多様な興味・関心に応じた教育活動を展開し、自ら目標を設定して取り組むことができる主体的な態度を育む。

※進路未決定者を毎年減少させ、進路未決定者ゼロを目標とする。(決定者 R3 95.2% R4 93.3% R5 92.2%)

※遅刻件数を一人平均前年度実績未滿をめざし、毎年減少させる。(R3 4.0件 R4 4.3件 R5 5.3件)

※転退学件数を35件未滿をめざし、毎年減少させる。(R3 39件 R4 51件 R5 56件)

3 地域や社会の期待に応え、生徒が楽しく意欲的に学ぶ魅力ある学校の構築

(1) 子どもが安心して成長できる安全な社会・学校の実現

ア 生徒が学校中心の生活を送れるような明るく楽しい学校づくりの推進

イ 生徒が健全な学校生活を送るための保健管理と環境美化

ウ 人権教育の推進と一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援教育の充実

エ 関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材活用による中途退学・不登校の未然防止

(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。

ア 近隣の小中学校や企業との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。

イ 学校ホームページ、SNS、体験授業等を活用し、学校情報発信を積極的に行う。

ウ 商業科の各コースにおいて、地域や企業等と連携した取り組みを計画・実践する。

(3) 教職員の働き方改革に関する取り組みを行う。

ア ICT機器を活用した情報共有等を推進することで教職員の負担軽減を図る。

イ 教員同士が相互に教材等の共有を図ることで効率化を図る。またICT機器を活用することにより、教材研究の時間の軽減を図る。

※学校教育自己診断（生徒）における「学校へ行くのが楽しい」の肯定率を、R8年度に75%以上をめざし毎年3%引き上げる。(R4 68% R5 66%)

※学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、R8年度に75%以上をめざし毎年2%引き上げる。(R4 74% R5 70%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒回答】 高評価（85%以上） 3 将来の進路や生き方について考える機会がある（87.3%） 6 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある（88.4%） 8 学校は1人1台端末を効果的に活用している。（96.1%） 12 進路についての情報をよく知らせてくれる。（90.7%） 低評価（60%未滿） なし	【第1回】（令和6年5月29日実施） （志願者増、学校の魅力発信に関して） ・学校の強みをわかりやすくアピールすることが必要 ・授業風景の学校HP掲載など、商業高校のイメージを持たせることが大切 ・HPに生徒から中学生に発信する内容を掲載する ・生徒のニーズに合わせ、学習内容に興味を持たせる工夫 ・新入生へのアンケート結果の活用 （学校全般に関して） ・転退学者数の減少に努めてほしい

【教職員回答】 高評価（85%以上） 1 学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。（85.7%） 2 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。（90.5%） 9 コンピュータ等のICT 機器が授業などで活用されている。 低評価（60%未満） 12 各種会議が教職員間の意思の疎通や意見交換の場として有効に機能している。（57.1%） 14 校内研修は教育実践に役立つような内容になっている。（47.6%） 【保護者回答】 高評価（85%以上） なし 低評価（60%未満） 2 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。（50.0%） 8 授業参観や学校行事に参加したことがある。（57.5%） 本校では、高評価（肯定的回答 85%以上）・低評価（肯定的回答 60%未満）を基準とするとともに、前年度比を加味して分析を行った。 生徒回答では、全 13 項目のうち 11 項目において肯定的な回答が前年度を上回った。これらの項目のうち、「悩みや相談に親身になって相談できる」は 10 ポイント以上上回っており、教員がカウンセリングマインドを持って接する意識が浸透してきていると評価できると同時に相談を必要としている生徒の数も増加しているとも捉えることもできる。一方で、「体育祭・文化祭が楽しく行えるよう工夫されている」については、10 ポイント以上下回っており、生徒会の意見を聴きながら満足度向上に向け、改善を図る必要がある。 教職員回答では、「各種会議が教職員間の意思の疎通や意見交換の場として有効に機能している」の項目が前年度から 10 ポイント以上上回ったものの評価としては低い水準であり、肯定率のさらなる上昇に向け、学校経営に積極的に参画する意識の向上を図っていく必要がある。 保護者回答では、おおむね前年度と同様の回答傾向であった。しかし、「子どもは授業がわかりやすい楽しいと言っている」の肯定率は 50%と昨年度から4ポイント減少しており、わかる授業をめざし、さらなる授業改善に努める必要がある。	・コース制から3年が経過し、その成果が見られる取組みを期待したい。 【第2回】（令和6年 11 月 25 日実施） （広報活動に関して） ・生徒による学校紹介や在校生が母校を訪問し中学生に学校の様子を語るなど、生徒による広報活動が効果的である。 ・高校生株式会社の取組みなど、商業科の取組みをいかに中学生にわかりやすく伝えるかが大切である。 ・中学校教員に商業高校の魅力を伝えることが必要である。 （学習の取組みについて） ・お金に関心のある生徒は多いと思われる。社会で役立つ税金、投資などの金融教育に力をいれてみてはどうか 【第3回】（令和7年2月6日実施） （学校関係者評価結果に関して） ・生徒が学校生活に求める具体的なもののリサーチが必要である。 ・大学では、毎時間の授業の振り返りを ICT 機器の活用し実施している。手間をかけることなく実施でき、生徒理解、授業改善に役立っている。 （志願者確保に関して） ・受験者増に向けての取組について、授業内容、学校行事などソフト面の充実とともに、校内美化（トイレ、エントランスに雰囲気）を図るなども必要である。費用のかかることで容易ではないが、可能な範囲でハード面の充実に努めてほしい。 ・中学生対象の学校説明会で、生徒による司会、説明など中学生が身近に感じられるようにしてはどうか （働き方改革に関して） ・働き方改革には、業務のスクラップ＆ビルドも必要である。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 「わかる授業、学力が定着する授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。			
	ア 商業学科の特性を活かした実践的な授業やICTを活用した授業展開、教科横断授業の実践など、教員同士が相互に教育力を向上させることで、生徒の進路実現に繋げる。	ア・個々の生徒を尊重し、褒めて伸ばす教育を学校全体に浸透させるために、教職員全員で取り組み、意欲的かつ積極的に学校生活に取り組む生徒を増やすべく活気ある学校づくりを進める。 ・授業等においてICTをより一層活用できるよう教員間で検討する場を設定する。 ・授業アンケート等の結果を踏まえ、教科横断授業など授業展開の工夫を行う。 ・リーディング GIGA ハイスクールモデル校として、他校の教員を招き、ICTを活用した公開授業を行う。	ア・学校教育自己診断（生徒）の「授業は、わかりやすく楽しい」を70%。[66%] ・学校教育自己診断（教職員）の「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」を60%以上。[50%] ・学校教育自己診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」80%以上。[80%] ・ICTを活用した公開授業を3回以上実施。[3回]	ア・「授業は、わかりやすく楽しい」71% 学校全体でさらなる授業改善を図る必要がある。(○) ・「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」61% 授業研究への意識をさらに高めたい。(○) ・「教え方に工夫をしている先生が多い」83% ICT 機器の積極的な活用が見られる。(○) ・ICTを活用した公開授業を1回実施した。新たな活用形態の授業研究をさらに進める必要がある。(△)
	イ 授業等を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、公開授業や校内研究協議を活性化することで、授業力の向上を図る。	イ・校内授業見学を実施し各教員は年度内に3回以上見学し、自身の授業の改善を図る。 ・HR・講演会・各種説明会等を通じて、多様化する教育課題を生徒・保護者にも情報提供し、理解を深める。 ・職員会議をはじめ学年会や教科会など各種会議において PDCA サイクルを意識し、関係教員が共通認識を持って業務にあたれるよう意思疎通を図る。	イ・学校教育自己診断（教職員）「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」90%以上。[93%] ・学校教育自己診断（教職員）「各種会議が教職員間の意思の疎通や意見交換の場として有効に機能している」60%以上。[46%]	イ「他の教員の授業を見学する機会がある」71% 公開授業週間が十分活用できなかった。(△) ・「各種会議が教職員間の意思の疎通や意見交換の場として有効に機能している」57% 学校運営への積極的な参画の促進が必要(○)
	ウ 授業アンケート等の結果を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を図る。	ウ・教科ごとの研究授業を実施し、教科担当相互の授業改善に繋げる。 ・実践事例を研究し、ICTを効果的に取り入れながらファシリテート力の向上をめざす。	ウ・教科ごとの研究授業を年度内に各教科1回以上実施する。 ・学校教育自己診断（生徒）の「自分の考えをまとめ発表することがある」を80%以上。[82%]	・全教科での実施には至らなかった(△) ・「自分の考えをまとめ発表することがある」89% 多くの授業で生徒が発表する場面を設定できている(◎)

2 商業教育、観光教育、キャリア教育、道徳心・社会性の育成の推進	(1) 商業教育、観光教育・キャリア教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人として他者と協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。 ア 「ライフプランニング」、「課題研究」、「志学」LHR 等を活用して、3年間を見通した商業教育、キャリア教育等を行う。またコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力等のビジネススキルの育成を図り、社会人基礎力を身につけさせる。 イ 進路指導部と学年が連携し、キャリア教育、進路相談を充実させる。 ウ 生徒自らが、時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立させる。	ア・「ライフプランニング」・「課題研究」を中心に体験型学習を取り入れ、3年間を通じたキャリア教育の充実を図るとともに、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の育成を図る。 ・教育活動のあらゆる場面において、キャリア教育を意識した指導、取組みを推進する。 イ・1年次から「ライフプランニング」を中心としたキャリア教育の充実を図り、進路意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を持って取り組める生徒を育成する。今後3年間で、卒業時の進路未決定者ゼロをめざす。 ウ・基本的生活習慣を確立し、特に時間を守る習慣を身につける。また、集団生活におけるルールを守る大切さを理解させ、文化祭・体育祭等の行事や講演会・講習会等を通じて継続的に指導を行う。	ア・学校教育自己診断（生徒）「将来の進路や生き方について考える機会がある」を 80%以上。[84%] ・学校教育自己診断（生徒）「進路についての情報をよく知らせてくれる」を 80%以上。[82%] ・学校教育自己診断（生徒）の「自分の考えをまとめ発表することがある」を 80% [82%]（再掲） イ・進路決定者を 95%以上とする。[92.2%] ウ・今年度の一人当たりの平均遅刻件数を前年度未満とする。[5.3 件] ・今年度の転退学件数を 35 件未満とする。[56 件]	ア・「将来の進路や生き方について考える機会がある」87% 教科「ライフプランニング」で取り組めた(○) ・「進路についての情報をよく知らせてくれる」91% 進路指導部と担任とが連携しながら情報提供に努めた(◎) ・「自分の考えをまとめ発表することがある」89% 多くの授業で生徒が発表する場面を設定できている(◎) イ・進路決定者 93.0%。キャリア教育のさらなる充実を図り、進路意識の醸成に努める。(△) ウ・一人当たりの平均遅刻件数 5.4 件。増加傾向にある。引き続き粘り強く指導を行う(△) ・転退学者数 48 件。引き続き粘り強く指導を行う(△)
	エ 生徒の多様な興味・関心に応じた教育活動を展開し、自ら目標を設定して取り組むことができる主体的な態度を育む。	エ・外部機関と連携した取組みを推進し、未知の分野に関する経験を重ねることで学習意欲の喚起を図る。 ・自ら判断して行動する機会を設けることで、生徒の主体性を養う。	エ・地域・企業と連携した取組みを実施する。30事業[42事業] ・セルフマネジメントデイを10日以上実施する。[11日]	エ・外部機関と連携した取組みを31事業実施した。[42事業] ・適切な時期が設定できず、実施に至らなかった(△)

3 地域や社会の期待に応え、生徒が楽しく意欲的に学ぶ魅力ある学校の構築	(1) 子どもが安心して成長できる安全な社会・学校の実現			
	ア 生徒が学校中心の生活を送れるような明るく楽しい学校づくりの推進	ア・体育祭・文化祭・競技大会において生徒が主体的に行事を運営できるよう、またすべての生徒が参加できるように工夫をする。リーダーを育成し全員で協力することの大切さや、生徒一人ひとりが楽しいと感じる学校作りのために何事に対しても率先して取り組める環境づくりを推進する。	ア・学校教育自己診断（生徒）「体育祭・文化祭が楽しく行えるよう工夫されている」90%以上を維持する。[91%] ・学校教育自己診断（生徒）における「学校へ行くのが楽しい」70%以上[66%]	ア・「体育祭・文化祭が楽しく行えるよう工夫されている」79%満足度向上に向け内容の精査を行う(△) ・「学校へ行くのが楽しい」66%魅力化を一層推進する必要がある(○)
	イ 生徒が健全な学校生活を送るための保健管理と環境美化	イ・保健委員を中心に保健活動の活性化を図る。また、「保健だより」を定期的に発行し環境美化に努める。	イ・学校教育自己診断（教職員）「この学校では、清掃がいきとどいている」50%以上[36%]	イ・「この学校では、清掃がいきとどいている」62% 美化意識の向上を図ることができた(◎)
	ウ 人権教育と支援教育の充実	ウ・教職員対象の講習会や生徒対象の講演会を開催し、教職員や生徒の人権意識の向上を図る。 ・全教職員がインクルーシブ教育に係る理解を深め、生徒一人ひとりの状況に応じた指導を実践できるよう資質向上を図る。	ウ・人権に関する講習会・講演会を4回以上開催する。[7回] ・インクルーシブ教育に係る研修会を年2回以上実施する。[1回]	ウ・人権に関する講習会・講演会を5回開催[7回]。人権意識の向上が図れた。(○) ・インクルーシブ教育に係る研修会1回[1回]。研修会全体について計画的な実施が必要(△)
	エ 関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材活用による中途退学・不登校の未然防止	エ・SC や SSW 等の専門人材と連携し、中退防止に向けて相談体制を強化する。 ・生徒一人ひとりが安心して学校生活が送れるよう、サポート会議を定期的で開催することにより、情報共有をおこない、教員がカウンセリングマインドをもって生徒に接することを心掛ける。	エ・今年度の中途退学者を前年度未満にする。[23人] ・学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」75%[70%]	エ・中途退学者26人。生徒一人一人に応じたきめ細かな指導が必要(○) ・「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」81%カウンセリングマインド浸透してきた(◎)
	(2) 地域や企業との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。			
	ア 学校ホームページ、SNS、体験授業等を活用し、学校情報発信を積極的に行う。	ア・学校HPを充実し、日頃の教育実践を教職員と生徒が積極的かつ効果的にPRする。 ・SNSを活用して学校での日常生活の様子を発信し、中学生に本校を身近に感じてもらえるようPRしていく。 ・魅力ある学校のアピールに努め、中学校への広報活動を充実させる。 ・中学生対象の各種説明会や体験講座の内容を精選し、魅力ある学校づくりをアピールし、広報活動の充実を図る。	ア・教員の中学校訪問回数合計200回以上を維持する。[247回] ・体験会・説明会の実施を5回以上とし、参加生徒等延べ300人以上を維持する。[5回 381人]	ア・中学校訪問回数203回[247回]。志願者増に繋がる効果的な説明内容を検討する。(○) ・体験会・説明会を5回実施し、参加生徒数227人[5回 381人]。魅力発信、開催の周知に一層努める必要がある。(△)
	イ 観光コースにおいて、地域・企業と連携した取り組みを計画する。	イ・観光コースの取組みとして、関係企業と連携し、観光プランの策定に向けた講習会やフィールドワークを実施し、実践的な知識と技術の習得を図る。	イ・関係企業等の外部講師による授業を定期的実施する。(新規)	イ・外部講師による授業を19回実施した。連携を深め、取組みのさらなる充実を図っていく。(○)
	(3) 働き方改革に関する取り組みを行う。			
	ア ICT 機器を活用した情報共有等を推進することで教職員の負担軽減を図る。	ア・フォーム作成ツールを利用し、欠席連絡対応の効率化を図る。	ア・欠席連絡対応ツールを作成し、2学期までに稼働させる。	ア・欠席連絡対応ツールが稼働し、生徒、保護者にもツールの活用が浸透しており、教職員の業務負担軽減につながっている(○)